

▼イソプリノシン錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 イノシン プラノベクス inosine pranobex 【分類】 抗ウイルス剤 [その他]

【単位】 ▼400mg/錠

【常用量】 50~100mg/kg/日

【用法】 1日3~4回

【透析患者への投与方法】 設定されていない (1)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 重篤な腎障害のある患者には慎重投与 [尿酸の排泄が遅延することがある] (1)

【特徴】 亜急性硬化性全脳炎患者における生存期間の延長に適用。抗ウイルス作用と宿主免疫能に対する作用を併せ持ち、Tリンパ球機能を強化し、細胞性免疫能及びマクロファージ機能を増強するとされる。

【主な副作用・毒性】 高尿酸血症、尿路結石、赤血球増加、白血球減少、血小板増加、肝機能検査値異常、消化管出血、嘔気・嘔吐、胃痛、間質性肺炎など

【F】 資料なし (1)

【tmax】 イノシンは同定できない。PACBA : 0.5~1hr, DIP : 1~2hr (1)

【代謝】 イノシンはキサンチン系の、安息香酸はグルクロン酸抱合により代謝 (1)

【排泄】 尿中に PACBA として 54.7~93.5%, DIP として 66.7~80.0% [po, 24hr まで] (1)

【t1/2】 経口投与後 24hr でおおよそ消失 (1)

【蛋白結合率】 PACBA : 30%以下でその他の成分は結合しない (1)

【Vd】 資料なし (1)

【MW】 1115.25

【透析性】 資料なし (1)

【OW 係数】 資料なし (1) 【薬物動態】 イノシンは生体内物質であるため PK は評価できない (1)

【更新日】 20180403

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。